

令和3年度第4回常磐公園の緑を考える集い 報告書

1. 報告事項

- ・ カンタンの定住化に関する調査の報告

「常磐公園の緑を考える集い R2 意見について(回答)」を基に、常磐公園内にカンタンを定住化させる方法についての調査結果をお伝えしました。

カンタンの定住化に関わる今後の方針について皆様と議論した結果、今後集いの中でカンタンの生息環境や食草等、カンタンの生態について知識を深め、また改めて定住化に向けた環境作りの方法について検討していくこととしました。



報告事項

2. 日本庭園ゾーンの改良(伐採等)

日本庭園ゾーンのテニスコート側出入り口近くのエゾマツの伐採作業を行いました。

出入り口を広げる形でエゾマツ4本の伐採を行いました。

伐採後は日本庭園ゾーン内外から景色がよく見え、伐採前に感じていた鬱蒼とした感じも大分少なくなったと思います。

今後も日本庭園ゾーンの改良については集いの中で検討していきたいと思います。



伐採作業

伐採後の出入り口

3. 次年度の移植作業の検討等

自然更新ゾーンの実生の移植について皆様と検討しました。

自然更新ゾーンにある3本のハルニレの実生の移植について、将来的に他の樹木と競合しないよう考慮しながら移植場所を選定し、移植作業については樹木が休眠時期に入る10月下旬頃に移植作業を行うことと致しました。

移植場所の選定や移植作業については集いの中で皆様と実施する予定です。



自然更新ゾーンの実生の移植に関する検討

4. その他（緩傾斜化区域の視察）

皆様と緩傾斜化区域の視察を行いました。

枯れ枝が多い樹木について、生きている枝に栄養がいくよう枯れ枝はせん定した方がよいのではと意見がありました。皆様と議論した結果、次年度以降に集いの中で葉が付いている時期に緩傾斜化区域にある樹木を確認し、枯れ枝がある樹木については、枯れ枝をせん定することとしました。



緩傾斜化区域の樹木についての検討

点検記録簿

令和3年10月28日10:00～ 調査

自然更新ゾーンの実生の移植について皆様と検討しました。

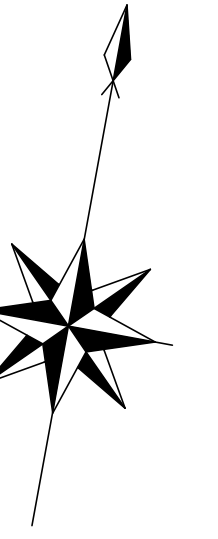
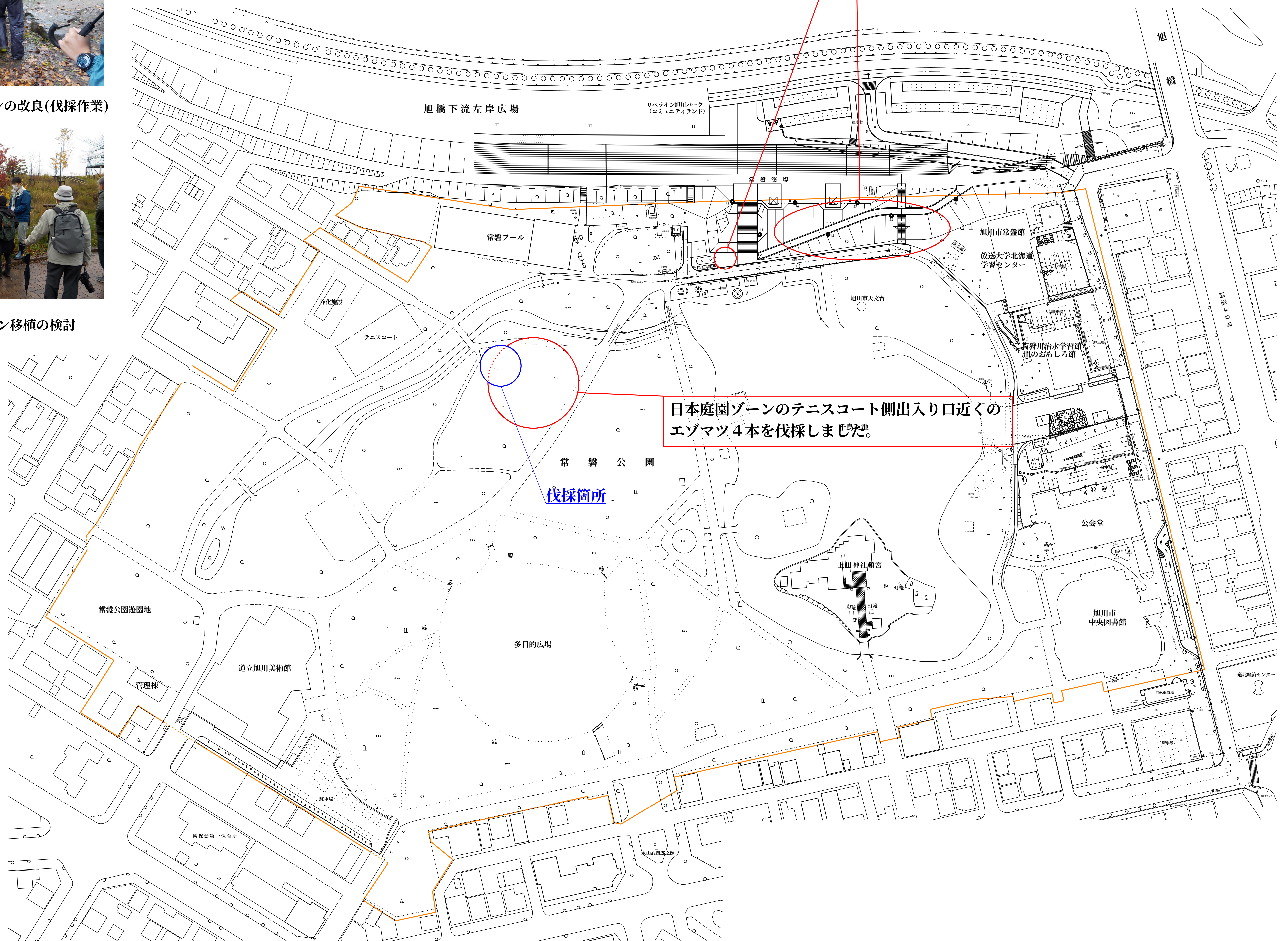
緩傾斜化区域を皆様と視察しました。



日本庭園ゾーンの改良(伐採作業)



自然更新ゾーン移植の検討



常磐公園の緑を考える集い R2 意見について(回答)

はじめに

令和2年度第4回「常磐公園の緑を考える集い」では、中央図書館で皆さんとこれからの活動内容等について協議しました。その協議の中で、旭川市の虫「カンタン」を常磐公園内での定住化を目指した活動内容についてご意見を頂いていたので次のとおり回答いたします。

1. カンタンの生態について

体長は11mm～20mmで体は細長く、長い触覚を持ち、薄黄色をしている。8月から11月にかけて出現する。草木が密生し湿度の高い状態を好むことから、河川等の岸辺に生息していることが多い。鳴き声は「ルルルルルル」と穏やかなきれいな声で鳴く。人の気配に非常に敏感であり、人が近づくと鳴き声を止める。姿が小さく、葉の色にも同化するため、目視で見つけるのは困難である。



旭川市の虫「カンタン」

2. カンタンを常磐公園に定住化させる方法について

常磐公園内にカンタンを定住化させる方法がないか、市内の昆虫について調査をされている末武英一さんに話を伺ったので、内容について以下の通り報告致します。

(1) 末武さんのご意見

カンタンが生息しやすい環境は、単一の植生ではなく、様々な植生のある環境が良いと言われている。現在バッタが市内で減ってきており、カンタンも同様に以前より少なくなっている状況がある。カンタンが生息しやすい環境であれば常磐公園内にも自然にカンタンが増えていく可能性も無くはないが、かなり低い。カンタンを増やす方法としては、他の箇所でカンタンを大量に捕獲し、常磐公園内に放す方法が合理的ではないかと思う。捕獲については北方野草園周辺のオサラッペ川周辺で捕獲が可能である。

(2) 意見を踏まえた今後の方針について

常磐公園内にカンタンを定住化させる方法としては

- ①ブッシュゾーンの環境を維持、又は改良を検討しつつ、自然にカンタンが定住化するのを待つ
- ②他の箇所でカンタンを捕獲後、ブッシュゾーンに放し、定住化を積極的に促す等があると思います。今後の方針については集い中で皆さんと検討していきたいと思います。